

学園ニュース

富山大学

NO. 65

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

平成元年10月11日



学内風景（その29）

教養部人文科学第二教棟

教育学部・伊藤道子

~~~~~ 目 次 ~~~~~

専門教育課程に進まれる諸君へ	工学部教務委員長 嶋尾 一郎	2
新任教官紹介及び挨拶		3
パリの古本探し・入門篇	人文学部助教授 村井 文夫	4
シアトルのワシントン大学	理学部助手 酒井 英男	6
結晶完全性の評価	理学部教授 杉田 吉充	7
留日感想	外国人留学生（人文学部） 陸 君	9
ルードヴィヒスブルク教育大学に留学して	教育学部4年次生 杉林 千里	10
情報処理センターだより	工学部助手 高井 正三	11
学部だより（理学部、工学部）		12
学生部だより		14

専門教育課程に進まれる諸君へ

工学部教務委員長 嶋尾一郎



今度、専門教育課程に進まれる諸君に心からお祝い申し上げます。月並ですが、これも健康であって家族・社会さまざまな因縁によることを心に留ておいて頂きたい。諸君が大きな希望と期待とをもって本学に入学され、規定の在学期間の三分一以上を教養課程で過ごされ、大学生活におけるこの節目にあってその抱負を新たにしておられることと察します。これからの行動を律する上で大学の意義や現在の立場を問い直してみる良い機会です。

言うまでもなく大学は「教育と研究」の場であり、学問に対する情熱と学習への意欲が必要です。そしてその意欲は専ら個人的な意識の問題であって、他から強制することは困難です。本来多くの人間は知ることへの欲望と知的生産の喜びとを持っています。大学生にあっては学問への情熱は特に大きいものと思います。

専門教育課程ではそれぞれの領域についてより深く学ばれ、卒業後社会の各方面でそこで得られた知識・学習の成果を活用されることが期待されています。学問には際限がなく、つぎつぎと新たな問題の解明が求められてきます。先人の膨大な業績にも拘わらず完成されたものではなく多く未知の事柄について活動が続けられています。大学での教育では、これからの発展へ向けて、まずこれまでに蓄積された学問の方法や成果の一部を能率的に伝えることが重大な仕事であり、それはさらに研究活動に組み込まれて学習することによって達成されることになります。

学問への精進は生涯にわたって続きますが、大学は学習のために一般的な社会生活と比べて、大層恵まれた環境にあることをよく弁えておいて下さい。人間の欲望に限りがないようで、教育研究の場にあっても理想的に満たされたものは得られない。改善への不断の

努力が必要なことは言うまでもないが、在学期間の長くはない諸君にとって現状を十分有効に活用することが肝要であろう。

知的活動を行うに当たっては、とくに頭脳の訓練が必要であり、不断の努力が要求される。肉体的活動にあってはとくに身体の基礎的訓練がなされているのと同じと思われる。日々の訓練が行われていないならば、その活動が求められた場において良くその力を発揮できない。休息の名を借りて能力の温存などといって怠惰な生活をするのはむしろ能力の退化を齎すものである。人の心身は働かせることで発達する。

現在の社会風潮として労力の軽減が強調され過ぎるようである。これはとくに近年の科学技術の急速な発展に依存していると思われる。何事によらず手間のかからぬ便利な手段を求め続けるのは人類にとって古くからの定事である。しかし心身を働かせること、またそれによる疲労にもましてその成果によって大きな喜びが得られる。これは余暇趣味の場でよりも、本来は生産的労働の場においてこそ求められるべきものであろう。大学にあっては当然学業の中においてこのような喜びが得られることを希望したい。働き過ぎ、労働は悪であるとの考えには同意し難い。

その時々自分の持つ力を充分に発揮していく生き方が好きである。諸君の多くは二十歳前後の青年期にあって人間としての成長に二度とない貴重な時代である。大学では殆どが自発的に行動することになっており、他から無理に強いられることが無いのが常である。自分のおかれた恵まれた状況に甘え、その日その日を学習に励むでもなく、或いは他の自分の選んだ道に徹するでもなく、唯無為に多くの時を過ごす者がままたるように見受けられるのは残念である。

光陰如箭。有意義にこれからの大学生活を送って欲しい。十二分に御研鑽を積まれ、無事御卒業されるよう祈念します。

新任教官

◦太田雅晴
昭59. 3

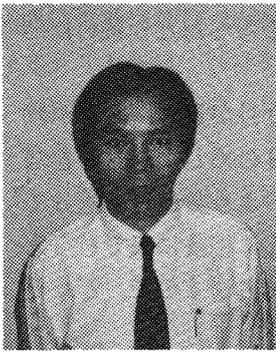
助教授(経済学部)元. 7. 1
京都大学大学院工学研究科
博士後期課程研究指導認定退学
担当: 管理科学

◦布村忠弘
昭59. 3

助教授(教養部)元. 5. 1
金沢大学大学院医学研究科
博士課程修了(医学博士)
担当: 保健体育

新任の御挨拶

経済学部助教授 太田雅晴



経済学部経営学科に管理科学担当の助教授として、7月1日付で着任しました。

私の出生地はアルプスを挟んで富山と対する静岡県の浜松です。富山大学に赴任が決まって着任するまで、私の意識の中にある富山を再確認してみました。大きな行李を

背負って訪れる葉売りのおじさん達の定宿が、私の生家のすぐ前にあり、窓に靴下などを干しているおじさん達の姿を、幼いころ、たいへんだなあと感じながら眺めていた記憶があります。また最近では、宮本輝の小説「螢川」に表れる富山であり、そこでは雪の多い年にいたち川の上流で大発生する螢を見た男女は結ばれるという伝説に元づいた実にロマンに満ちた富山のイメージです。いずれにしても私の中の富山は遠くはあれ、決して悪いものではなかったように感じます。こちらに着任し、休日に郊外に車を走らせてみますと、目映いばかりの緑が広がっており、今まで都会の雑踏の中で忘れかけていた自然、それが身近にあることが無性に嬉しく感じられ、富山に来て良かったと感じて

います。

私は今まで工学部の機械系学科で教育を受け、研究活動を行ってきました。幼いころから機械が好きでその道へ進んだのですが、現代の機械のほとんどがシステムとして成立していることから、システム工学に興味を抱き、さらに生産の分野のシステム化に多大な貢献をされた先生を恩師として仰ぐことができましたので、次第にその分野、さらには経営の分野のシステム化を研究の本題とするようになりました。経済学部への着任はそんな私にとって望む所であり、工学部では得られない知の源泉に触れる機会を得て大いに喜んでいます。

システムを考える上で、「情報の流れ」と「物の流れ」の統合が重要となりますが、幼いころ見た窓辺に靴下を干す単身赴任のおじさん達は、まさにその担い手であり、それを伝統とする富山の産業、そして富山の人々は、コンピュータを中心としたこれからの産業において何が重要かを身に染みて知っているはずであり、そんな地、そしてそこにある大学に籍をおかして頂けることに感謝し、教育と研究活動に専念しようと考えていますので宜しくお願い致します。



新任の御挨拶

教養部助教授 布村 忠弘



この4月までの約2年間は病院で心臓病の人をおもに診てきました。こう言うのかなり畑違いのところへ来たように思われるでしょうが、私にとってはここに来るために内科医をしていたようなものでした。大学を卒業した時は、なんでもいいから運動に関係したことがやりたくて、生理学という教室に入り運動時の発汗や皮膚血流といった体温調節反応の研究に携わってきました。生理学教室には7年間いたのですが、成績はその時監督をしていたバレーボール部の方がよかったです。また、ちょうどその頃始まった日本体育協会公認スポーツドクターの資格を取り、スキー実習などに同行したりしていました。しかし、それだけではもの足りず、また研究の方も、だからどうしたというんだ、という思いがあって、スポーツドクター

としてやっていきたいと思うようになり、そのためには臨床家として人間を診ることができなければ駄目だということで内科に移ったのでした。内科医としては、競技中の急死などに対する救急処置、運動適応を決めるメディカルチェック、健康維持や成人病予防のための運動処方などスポーツドクターとして重要な役割がたくさんあり、いろいろ活躍できそうなのですが、運動をしようなどという人は健康保険の対象外ですから、病院にいたのではおもしろくなく、こうしてようやく大学の教養部保健体育というところへたどり着いたというわけです。

さて、5月に赴任してから4カ月が過ぎ、あこがれの劔岳にも登ることができ、三度のめしよりも好きなバレーボールも存分にやり、夢のような毎日を送っておりますが、とにかく早く皆さんに相談に来てもらえるようにならなければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 海外研修記

パリの古本探し・入門篇

人文学部助教授 村井 文夫

依然としてパリは古書蒐集の中心地である……とは、さるフランス古書店ガイドブックの一節であるが、多少とも本に関心があって、日頃から入手の困難さに悩む者にとってパリが今なお妖しい魅力を放っていることは誰も否定できまい。

無論、パリは盛りを過ぎた、往時の輝きは失せたという嘆きも聞こえてくる。確かめようもないことだが、戦後の混乱期の日本がそうであったように、パリでも一時は歩けば掘り出しモノに当たるなどということもあつたらしい。だが現在ではパリの古本市場も一通り整理がつき、収まるものは収まるべき所に落ち着き、おこぼれにあずかる機会はずがない、とはあるもの知り日本人の言だが、心当たりを西東と歩きまわらううちに、そんなものかもしれないと思うようになってきた。

これはと思うものが書棚に並んでいることはまずない。難しい顔をしたオヤジに恐るおそる「これこれはないか。できれば1817年のもの。」などと聞いても、「ない。」とか「そんなものは二、三年くらい探してどうなるものではない。」などという調子。取り付くしまもない。なにも二百年前、三百年前の本格的な古書とは限らない。面白いのはせいぜい二、三十年前のいわゆる研究書の類で、確たる評価の定まったどの書誌にも必ず登場するようなものは、そこら辺の安売り屋から専門古本屋までどこへ行っても見当たらない。これもその道に詳しい人に言わせれば、パリには世界中の狼が目を光らせているから、目ぼしいものは、たとえあつたにしても店に出てくる前に横から手が伸びて奪い去る、ということだ。

こういう訳で当初の期待はあっという間にしぼみ、前途の困難さに打ちのめされてしまったが、商売よりはむしろ収集した書物の豪華さ、品格の高さを誇るのを目的としているかのような高級店、恐るべき記憶力で当方の質問に即答する店員など楽しみは尽きなかった。

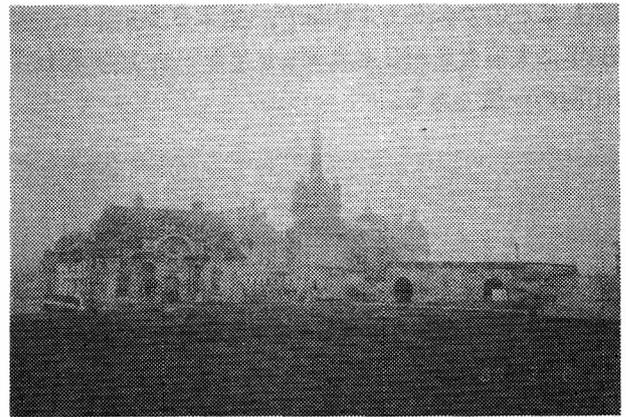
さて、昨日出た本を今日並べている初級店、まあまあ品の揃えの中級店、分野を特定した専門店、収集家を主な顧客とする高級店と、大ざっぱといえば余りに大ざっぱであるが分類でき、これとは別に定期的な古書市がある。専門店などは一通り棚を眺め、探している本を依頼すると、あとはカタログを頼んでおくぐらいでも通う楽しみはない。ただしカタログが来たら即刻電話に飛びつかなくてはならないのは日本と同じで、この点何につけスロー・ペースのこの街に潜む狼が数少なくないことに歯ざしりさせられたことであった。

中級店、高級店ではこれという本は全然店には並べなかったり、後ろのガラスケースに収まっていたり、店員が恐い顔で覗んでいたりとなかなか大変だが、そこへいくと気楽なのが古書市である。私がよく通ったのは市内南部で比較的最近開かれるようになったジョルジュ・ブラッサンス公園の市であった。毎週土曜と日曜、もとは屠殺場とやらの鉄骨剥き出しの殺風景きわまる広場に、市内及び近郊都市から軽トラックやライトバンをしたて出張本屋がやってきて、台や簡単な棚に品物を並べていく。玉石混淆のあれこれを引き抜いては眺め、山を崩したり壊したり、それなりの楽しみは尽きないし、買う気を見せつつちょっと首をひねったりすると大幅値下げというウマ味にありつくこともある(!?)。だが総じてこういう所の本はコンディションがよくない。虫食い穴やら背中の一部が欠けたもの、まるでメクラのもの、表紙がそりかえって戻らぬもの、仮綴じのまま幾星霜の齢を重ね最早古紙の山としか見えぬもの。など、など。そして何より

問題なのは値段が高めに設定されていて必ずしもリーズナブルとは言いかねることであった。

さて、そうこうするうち工芸学校に由緒正しい古版本の展覧会を見にいき、そこで見かけたポスターで国際古書市の開かれることを知り大した期待も持たず赴いた。

驚いた。フランスはもとよりヨーロッパ各国、アメリカ、さらには日本まで、文字通り国際的な古書店が約二百軒。どれも名あり実ある老舗揃い、眼光鋭い出張番頭の背後に並ぶのは誇りと気品に満ちた光輝凛然たる古書の行列であった。今思い出しても自ずと口元の綻び、口中に涎の溢れるのをとどめようもないその光景を表現する言葉を私は知らない。一冊一冊はどれほど美しくとも、展覧会の本には「用の美」はない。他方公共の図書館には確かに多くの書物があるが、多年にわたる苛酷な使用、狼藉の限りにくたびれはて生気のかけらもないことがしばしばだ。個人の蔵書から出るものの素晴らしさ。定期的に埃を払い、油を塗って磨かれ愛蔵されて、熟成したワインの香りにもたえられよう香気を放つ書物の数々。しかもそれらの多くが実際に手に取って見ることができるとあって、こちらのモロッコ革の赤のなごやかな五巻本、あちらの凛々しい羊革に押した金箔の鈍く光る小型三巻本、また変わった紋章の印象的な大冊本と、いつまでも至福の時を味わったのであった。



パリ郊外シャンティイの城館。近くの図書館をよく利用した。

シアトルのワシントン大学

理学部助手 酒井 英 男



昨年7月から今年の5月末まで米国, University of Washington (ワシントン大学) に滞在する機会を得た。この大学は、アメリカ北西部カナダと接するワシントン州の州立大学で、シアトル市にある。ちなみに、ワシントン州の東部には、Washington

State Univ.があり、ミズーリ州のセントルイスに私立の名門Washington Univ.がある。日本名では区別し難いので、滞在先を問われたらシアトルのワシントン大学と答える様にしている。

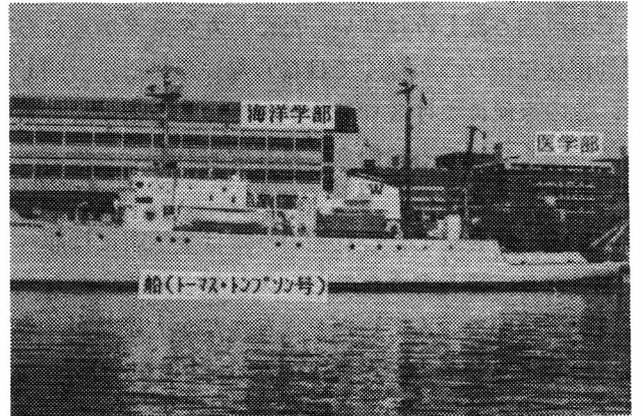
シアトル市は、緯度は稚内とほぼ等しいが、海流の影響で雪は滅多に降らず冬も過ごし易い。西海岸には珍しく水に恵まれており、エメラルド・シティの愛称をもつきれいな都市である。こうした環境も理由で、戦前から日本人に親しまれており、現在も北米第一の日本品スーパーがある様に、日本人の数は多い。市の東側には、タコマ富士と呼ばれているレーニエ山(4394m)などのカスケード山脈が一望できる。1980年に大噴火を起こしたMt.セント・ヘレンズもこの山脈の一員である。



1962年の世界大博覧会の記念塔であるスペース・ニードル、大リーグのシアトル・マリナーズの本拠地キング・ドーム球場とレーニエ山

ワシントン大学は、西海岸ではU.C.バークレイにつぐ歴史(創立1861年)を持ち、学生数33,302人(学部生24,691人)のマンモス大学である。広大なキャンパ

ス(約275万平方メートル)は、緑が豊富で、また海と水門でへだてられたワシントン湖に面しており心が休まる環境にある。私が所属した海洋学部では、主に海洋・海洋底を対象にした自然科学を行っている。船を所有し、私がいいた建物の前から太平洋などへ観測調査や試料採取に出かけていた。



海洋学部、医学部と船(トーマス・トンプソン号)

大学には荘厳な建物が多いが、図書館本館もその1つである。この本館は膨大な蔵書数を誇っており、平日朝9時から夜12時まで、土・日も数時間の短縮があるが開いていた。学部の図書館にない論文雑誌を求めて、私の部屋から徒歩で20分程かかる本館へも良く通い、借りだしカードにも、かなり名前を残してきた。コピーが主な目的だが、1冊2kg程の本を5、6冊借りて、オフィスまで運ぶのは大変である。そこで、休日に車で図書館の近くの駐車場(休日は無料開放)へ行き、本を借り出す様になった。

休日であるが、顔馴染みの教官達も文献捜しに、よく来ていることに気付いた。アメリカの研究者は、家族主義で土・日は、学校に来ないものだと思われていたが、そうではない。平日は、授業・研究・打ち合わせなどで忙しいので、休日にじっくりと論文を探る教官もいるのである。スタンフォード大学の図書館に日曜日、出かけた際にも、地球物理の世界的な学者が、本を積み上げて読みふけているのを見た。案内してくれた人から、彼は日曜日はいつもそうであり、それを学生も見習う様になるのだと言われ、身が縮む思いをした。

学内食堂などに、大学内で発行している日刊紙が置いてある。昼食時、好物のbaked hamのサンドイッチを食べながら、この無料配布の新聞を読む。Cold fusion（低温核融合）などの最新の話題に加え、アパート・アルバイトの紹介・広告などが挟まれた、肩も凝らず飽きない内容であった。帰国後、研究室の学生に見せたら、こういう英語だと楽しんで勉強ができると好評だった。この新聞から、プリンストン大学のブルック・シールズクラスまではいかない？が、ワシントン大学の出身者にもスターがいることがわかった。ブルース・リーである。当時の教官の感想では普通の学生であり、体育でも余り目立たなかったそうである。また、州の高給取りの番付100位内に、ワシントン大学の教授が8割を占めていた記事にも驚いた。州知事はまん中程度であり、トップはスタンフォード大学から引き抜かれたという心臓外科の教授であった。物理学の有名なファインマン博士が、“アメリカで一番の高給取りの物理教授”と自己紹介したと本で読んだことがあるが、優秀な研究者は報酬も多いという論理は、アメリカでは認められているらしい。

滞在中に出会って印象に残った研究者も少なくない。地形学のウォッシュボーン先生にも感銘を受けた。70歳半ばの名誉教授だが、今でも大学に自分のオフィスを持っている（どうして可能なかはわからない）。ゼミでは普段のこやかな顔は消え、鋭い質問をなさる。アラスカの氷河地形の研究に、夫婦で今でも出かけるという。他の学部にもそうした方がいらっしや、老いても一線で活躍なさっている研究者が多いことに

も驚いた。

私は、地球の電磁気学をテーマとしている。過去に、地球の南北の磁極はかなりの頻度で、反転しているが、全く反転がなかった期間もある。こうした磁極の逆転が希少な時代の、地磁気の特徴を探ることを滞在中に始めた。この仕事は、地磁気がなぜあるかの謎解きにも役立ち、地球（流体核）の歴史とも関わってくるかもしれない。お世話になった海洋学部のジョンソン教授や、地球物理学部長のメリル教授とは、こうしたテーマで2週間に1度のゼミを行い、下手な英語を聞いて貰っていた。



お世話になったジョンソン教授、メリル教授と筆者

滞在中に将来の共同計画を幾つか練り上げた。先日、その1つがアメリカ政府の助成金を得たとの連絡が来た。来年、ワシントン大学の船が東京に寄り、マーシャル諸島に向けて航海しながら電磁気計測を行う。目的は、地磁気の逆転の少ない時代の情報を、太平洋の海洋底から探ることにある。シアトルのワシントン大学との共同研究は、始まったばかりである。

◆ 特定研究

『結晶完全性の評価』

理学部教授 杉田吉充

あらゆる時代の文明はひとつの素材の創造と活用から始まったといわれる。古くは先史時代の石器、それから近代の鉄はそれぞれの時代を創る素材として大きな役割を果たしてきた。そして現在の情報化時代、エレクトロニクス時代にあって、これらを創造している素材はシリコンである。この素材から造られたトランジスタ、ダイオード、集積回路等の電子デバイスを利用した機器は、コンピューターから家庭用のTV、ラ

ジオ等枚挙にいとまがないほど種々の製品の中に組み込まれて活躍していることは今更言うまでもない。このようなシリコンの発展の歴史を眺めてみると、最初の発展期は第二次世界大戦の末期で、レーダー技術の開発の必要性からシリコン結晶を用いた検波器の開発が欧米や日本でも戦時研究として組織的に行われた。戦争終結後も一部の研究者達、アメリカのベル研究所の人達により続けられ、トランジスタの発明へと導か

れたのである。トランジスタの発明に使われた材料は同属のゲルマニウムであったが、シリコンのもつ優れた固有の特性が集積回路を可能としたのである。

ところで、我々が今手にしうる純度が最も高く、また最も完全な結晶は何か？天然産と人工とを問わず、これはシリコン結晶なのである。世にある多くの結晶は純度が低く、その上多くの欠陥を含んでいる。シリコンは抜群の結晶完全性を持っている。結晶完全性が高いと言うことは、理想的には、結晶を構成している原子が規則正しく並んでいて寸分の狂いもないことを意味する。やや誇張して言ったが、どんな完全結晶でも絶対零度に置かない限り、僅かな数の原子の抜けた孔—原子空孔—を持っている。実際には、集積回路等に用いられているシリコン結晶には適量の不純物や欠陥が含まれている。

完全結晶は理想であって、現実には“完全に近い結晶”はその性質が単純なため学問的研究の上でも貴重な存在なのである。応用・実用研究の分野では言うまでもない。物性、格子欠陥、我々の専門とするX線回折等の分野の実験および理論の基礎研究において、シリコンは重要な役割を演じてきている、そして今後も演じ続けるであろう。

本研究のテーマは結晶完全性の評価である。結晶に入ったX線は原子により散乱される。原子が規則正しく配列していると、散乱されたX線の波は相互に干渉し合う。その結果、或る特定の散乱角に対して散乱波は互いに強め合って、強いX線ビームとなって結晶外へ出ていく。しかし現象はもっと複雑で、結晶に入ったX線の波は複屈折のような現象で僅かに長さの違う二種類の波長の波を生じ、これらの波は結晶内部で互いに干渉して、結晶外へ出るときX線ビームは振動的強度分布を示す。これを我が国ではペンデル振動と呼んでいる(Pendellösung Oscillation)。ペンデル振動を観測するためには細くかつ平行にしたX線ビームを結晶に入れて結晶によってX線回折を起させ、結晶から出て来たビームを写真乾板に撮影する方法をとっている。調べたい結晶が欠陥を含んでいて原子が正規位置から変位していれば、波の干渉に変化を生じ、結局

はペンデル振動の周期や強度分布に変化が現われるであろう。実際の実験では写真乾板上にうつった像をミクロフォトメーターを用いてX線強度分布に変換する。このようにして得られたペンデル振動の強度分布と、コンピューターで計算した理論による強度分布とを最小二乗法を用いてフィッティングさせ、欠陥による原子変位の平均値を求める。この値から結晶内部に含まれる欠陥の形状、平均の大きさ、数密度等を推定することができる。このようにして完全に近い結晶の完全性の度合を評価することが可能である。

本研究では結晶育成法を変えて成長させたシリコン結晶を種々の条件の下で熱処理して結晶完全性を変化させた試料を準備して評価を行った。実験結果の一例を挙げると、引き上げ法で作製したシリコン結晶を約650°Cの低温で長時間熱処理すると、約80Åの大きさの二酸化シリコンの析出物が約 10^{12} 個/cm³生成していることがわかった。

シリコン結晶については、結晶完全性の分野に限っても、おびただしい数の研究が報告されている。しかしここで取り扱うような原子スケールの欠陥に対する研究は主に電氣的・光学的手段にたよっていて、構造的な面からの研究はほとんどなかったと言えよう。ペンデル振動を利用した結晶完全性の研究は我々グループの他に西ドイツとソ連にあるのみである。これはこの方法がまだ新しいものであって、これから発展して行くものなのである。

我々は筑波にある高エネルギー物理学研究所のフォトンファクトリーからの放射光—紫外部からX線までの波長範囲の電磁波で、我々研究室にあるX線源の千倍以上の強度をもつ—を利用してシリコン結晶内にある原子空孔の集合体の研究を現在進めている。またこの方法はシリコン結晶に限らず他の半導体結晶にも適用が可能であろう。今Ⅲ・V族化合物半導体結晶の結晶完全性についての研究を研究室で進めている。

本稿は特定研究「X線セクショントポグラフィ法におけるペンデル振動効果を用いた結晶完全性評価の研究」の概要を紹介したものである。研究遂行上で多くの方々のご協力を得ました。ここに感謝の意を表します。

留 日 感 想

外国人留学生（人文学部） 陸 君（中 国）



大陸中国の江南水郷から島国日本の北陸地方、富山に来て、気候、言語はもちろんの事、文化、風俗習慣などにおいても相当な違いを肌で感じつつ、時々刻々と新しい生活にチャレンジをしているというのが今の実感である。しかし、中日両国は一衣帯水の隣

国であり、従来その交流を互いに頻繁に行ってきたので、少なからぬ共通点をも有する。私が日本に来てからの第一の印象としては、日本は文明、礼儀にすぐれていることと、環境の美しさ及び交通、通信などの便利さであるが、一方、物価の高いことと気候の変化が激しいことにもかなり驚いている。

富山の自然の美しさ、物産の豊かさ、富山の人々の親切さ、そして富山大学キャンパスの学術的雰囲気など私にとって極めて印象的である。立山をバックに、神通川が流れる傍らにうっそうと茂った樹木に囲まれて建つ富山大学に毎日通い、自然の香りを満喫しながら、充実した日々を送っている。

この一年来、アメリカ文学教授福田立明先生のご指導の下に、20世紀のアメリカ文学を中心に研究を続けてきた。その中ではアメリカの詩壇における第一人者であるT.S.Eliotの著名な長詩The Waste Land及び、ノーベル賞受賞者のWilliam Faulknerの傑作Absalom, Absalom!そして著名な短篇小説家であるSherwood Andersonの“The Egg”や“The Man Who Became a Woman”等の作品は非常に心を引きつける。T.S.EliotのThe Waste Landという詩は20世紀詩の記念碑的作品である。5部構成433の詩行に古今東西の文献が引用され、社会、歴史、宗教、文学などすべて詩と一体にうまく融合されていて、詩の膨大さと奥ゆきの深さをつくづくと感じさせられる。William Faulknerの傑作であるAbsalom, Absalom!は、複雑な構成をもち、しかも複数の語り手によって語られる長篇であり、とくに意識の流れの技法がこの作品において実にうまく用いられ、主人公Sutpenの野望の挫折を物語ることによって、異質な他者と衝突の避け難い現代の生の意味を問おうとした作品である。S.Andersonはユーモラス

な、諷刺的な表現技法を用い、工業化社会が人間を機械化する苛酷な事実を説いて、人々の異常な心理を掘り出した。

福田先生はこれらの作家及び作品についての研究は非常に深く、講義での解釈はとて精練で分かりやすく、おもしろかった。とくに先生が熱心に指導してくださることに對し、ありがたく思い、感激で一杯である。私はこれをたよりに、これらの作品を詳しく読むことができ、又アメリカにおける特定の時期の社会、歴史、文化及び各階層の人物に対する理解を深めることが出来た。

そして、アメリカ生れの外国人教師、Elizabeth Ballestrieri先生のアメリカ文学の特殊講義も、視野を大いに広めてくれた。また、先生のご指導の下に、英作文的技法を身につけ、その表現力を次第に高めてきた。

富山大学附属図書館及び研究室の資料も研究に大きな手助けになってくれる。このようなすばらしい環境で学び、一年の月日がたつにつれ、日本語の支障もだんだん克服し、次第に自由に使えるようになってきた。

勉強の傍ら、私は日本での生活をも大いに体験することができた。去年の9月に私は3才の娘を連れて富山に来たのだが、初めのころ、私が最も心配したのは娘の保育園の事であった。いまになって見れば、それはまったく杞憂に過ぎなかった。例えば、中国の子供はふだん皆厚着の習慣があるのに対して、日本の子供は薄着である。とくにこちらでは子供が保育園に入ると、すぐ素足にされ、それでは、風邪でも引いたらと、さんざん心配していたが、これはぜんぜん問題にならなかったばかりか、とても健康に育っている。娘はいまやもうすっかり保育園の生活に慣れて、思うぞんぶんに楽しんでいる。おまけに富山のなまりもしみこませてしまったのである。

私達が家族そろって留学することができたのは、福田先生及び身元保証人山崎さん、そして友人の皆様のご支援によるものである。去年の9月、アパートに入って日本の新しい生活を始めた時、福田先生や奥様、そして管理人の津田さんなどが日常用品をたくさん持って来て下さったので、生活には少しの不便も感じなかった。自分の全然知らない異国他郷でこんな暖かい友情

といたれりつくせりの思いやりをいただいたことを非常にありがたく思っている。

来日して、しばらくたったある日の事である。外はひどい雨で、途中、滑ってころがり、足をひどく挫いた。治療のため、人文学部の学務係柴田さんが病院まで送って下さった。西能病院のお医者さんの治療のおかげで、1週間ぐらいで治ったが、助けて下さった方々への感謝が胸一杯で、いまでも忘れられない事である。

そして、この1年間、日本での生活体験を通して、肌で感じた異質な風俗習慣及び生活様式などにも非常におどろいている。まず、椅子、ベッドの生活からいきなり、すべて畳の生活にかわったこと、炒め料理が刺身や生野菜にかわったこと、そして納豆にとろろなど、慣れるまでは時間がかかると思うが、日本料理の特徴である「色彩、栄養」重視のよさがだんだん分かってきている。いまや「わが小家庭」のテーブルに現れ

るのは常に和衷折衷風なのである。

このようにして1年間の留学生活を送ってきたが、学業上沢山な収穫ができたばかりでなく、日本の社会及び文化、風俗習慣などをも肌で感じる事ができた。これは私の人生において、極めて大きな影響を与えてくれ、この上ない良い体験になっている。これは、全て、富山大学の諸先生方及び友人の皆様のご支援のたまものである。この学園ニュースの一角をお借りして、謹んで心から感謝を申し上げますと共に、留学の所期の目標が達せられるよう、今後ともよろしく御指導下さいませよう心からお願い致します。私はこれからも一生懸命に学問に志し、日本で学んだ知識及び日本の多くの方達の友情を一杯中国に持って帰り、中日両国の文化交流、世々代々の友好のために貢献する決意であります。(1989年、9月富大にて)

ルードヴィヒスブルク教育大学に留学して

教育学部4年次生 杉林千里

文部省教員養成大学・学部学生海外派遣制度により、昭和63年9月より平成元年7月までの11か月間、西ドイツのルードヴィヒスブルク教育大学で学ぶ機会に恵まれました。

ルードヴィヒスブルクはシュトゥットガルト(バーデンヴェルテンベルク州の州都)から電車で20分の所にあります。近くには、大小3つのお城、動物が放し飼いになっている自然そのままの大きな公園、天を突くような木々、広大な農地などがあり、閑静な実に勉学に適しているところでした。

私がルードヴィヒスブルク教育大学で学んだ主なものは、専攻の生物を中心とした、教育実習を通しての教授法についてでした。

教育実習では、手作りの資料の素晴らしさに驚きました。例えば、「臭覚・味覚・触覚」といったテーマが与えられると、学生達は、毎回毎回、紅茶や数多くの香辛料を準備してきました。その香辛料の一つ一つに説明が詳しく付けられ「どのようにして子供達に関心や興味をもたせることができるか、どうしたら分か

りやすいのか」そのことを絶えず念頭に置き工夫に工夫を重ねた資料が準備されていました。豊かな発想と丁寧な出来栄と、心のこもった資料作成の用意周到さにはいつも感心させられました。また、突拍子もない子供の質問や意見を上手に取り上げ、一人一人の子供を生かしながら授業が進められ、学ぶことの多い教育実習でした。

また、生物の講義では、学生達は1時間30分思いっきり学習を深めていました。テーマをより深く追求していくわけですが、そこでの学生達の意見や疑問がどんどん出され自分の考えをはっきりさせていきます。ですからどの講義も時間よりずっと短く感じられ充実したものになりました。学生達も活気ある講義の後は満足感に満たされ、キャンパスには快い緊張感がみなぎり、私はそんな環境の中で勉学を進められることを何回も感謝しました。

ドイツではどんな職業でもスペシャリストを目指し勉学に励みますが、教育大学でも全く同じで、学生達はよく勉強します。私が生物学を専攻するドイツの友

人をみても、本当によく勉強していました。したがって、みな博識でした。生物の講義で使われていた実験観察の対象となるものは殆ど実物でしたが、これらが手に入りにくい場合は、模型が使用されました。(内臓のようなものは、内を切って見るができるものが、そして、花などのように小さいものは、大きなものが用意されていました。)その他、スライド、OHPなどが、資料としてふんだんに用意され、学生の理解に役立つように常時準備されていました。

体育は、球技を中心とした学習を行いました。どの授業も男女混合でした。身長の小さいことを心配していましたが、時間が過ぎるにつれてそれが吹き飛んでしまいました。体育で学ぶ目的がいろいろとありますが、この教育大学では、何よりも「みんなでスポーツを楽しむ」ということが基本だったように感じました。ともすると勝敗にこだわり、そのためのちょっとしたトラブルで人間関係までスムーズにいかなくなったりして、マイナスになったりすることがあり、本来のスポーツの精神から外れがちなのですが、ここではあくまでも「共に楽しむ」ことが優先するので、実に和やかな雰囲気で行われました。仲間がたとえ失敗しても決して責めることはしないし、気にしないで頑張ろう!と励まします。ですからみんな生き生きとプレーに参加します。すばらしいプレー技術など目にはいれば、敵、味方なく絶賛の拍手が送られます。仲間を思いやり、共に伸びていこうとする学習意欲に、私もいつもこんなふうでありたいと強く強く思いました。

ヨーロッパは2回目というものの、初めて訪れる

土地「西ドイツ」あちらを向いてもこちらを向いても知らないことばかり。ほんの少し話せるドイツ語を頼りに始まった留学生活。振り返ってみると、私の周りに友人がいなかったら、とても11か月の月日を意義深く過ごすことは出来なかったと思います。それほど友人は私にとっては大切であり、掛け替えのない人々でした。時には、励まし、時には、笑い、語り合い最高の人々でした。彼らは毎日の生活でよく語らいます。互いの意見を、決して臆することなくぶつけあうのです。難しいことばかりではなく、日頃見落としそうな身近なところから話題を選び議論します。私も参加し意見を言いましたが、みんなその話し合いを通して自分の考えを深めていきます。話し合うことの大切さを学びました。そして中でも「自分のペースで学び、何事も熱意をもって、粘り強く頑張りとおす」このことだけは私の生涯を通しての手本にしていきたいと思っています。

ドイツ人以外の留学生とも話し合う機会を得ました。イタリア、フランス、ブラジル、アメリカ、ザイールそしてスペインの国々のほんの少しですが現状や様子、国民性について知りました。今後、益々国際交流が盛んになってくることでしょう。習慣や文化の違いを受け入れる柔軟さはとても必要だと思うとともに積極的にその努力をしていかねばならないと思いました。

留学生活は私にとって素晴らしい日々となりました。経験から得た貴重な学問と心の財産を、これからの人生に役立てていきたいと思うと同時に、留学にあたりいろんな面でご指導、助言をいただいた先生方、事務の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

情報処理センターだより

工学部助手 高井正三

1. 新情報処理システム披露式挙行

富山大学の新情報処理システムは、国際競争入札による調達手続きを経て導入され、平成元年3月20日から運用を開始しました。7月6日には学長をはじめ関係者約40名の列席のもとに新システムの披露式が行われました。学長から祝辞があり、情報処理センターの歴史を省みながら、研究・教育における情報処理センターの果たすべき役割の重要性、新学術情報通信システムによる各種サービスの拡充に対する期待、等につ



いて激励の言葉を頂きました。

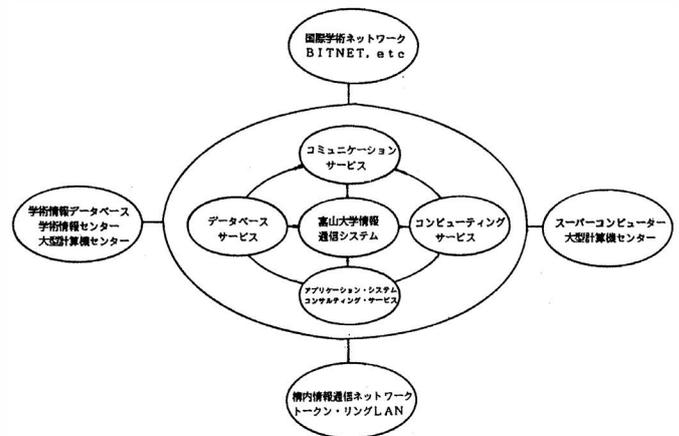
つづいてセンターから新情報通信システムの特徴と提供される新しいサービスが紹介されました。また、新システムへの移行に際し、その卓越した技術を駆使し、終始一貫誠意をもって事に当たった日本IBM株式会社、構内データ通信ネットワークの敷設工事を担当した株式会社昭電、図書館のオンライン情報システムの移行を担当した株式会社インテックの3社に感謝状が贈呈されました。式終了後、新システムによるデモンストレーションが6つのコーナーにおいて披露されました。大井学長によってデモ・システムのスタートスイッチが押され、本学構内の画像処理による全景図がグラフィック・ディスプレイに写し出されると、出席者からは驚きの声に続いて盛んな拍手が沸き起こりました。この後、各コーナーにおいて次のアプリケーション・システムが実演され、出席者からは熱心な質問に加え、新サービスへの激励と心温まる称賛の言葉を頂き、感動の中に無事披露式を終えました。

- (1) コンピューター工学設計解析システム
- (2) コンピューター設計製図システム
- (3) 電子メール/電子掲示板システム
- (4) 図書館情報システム
- (5) 画像入力システム
- (6) 研究用アプリケーション・システム

2. 新情報通信システムの特徴とサービス

新情報通信システムは汎用大型コンピューターIBM 3081-KX4を中心にして、295台のIBMパーソナル・システムと48台の既設NEC PC-9801系パーソナル・コンピューターを、構内通信ネットワーク(LAN)に接続した、大規模情報通信ネットワーク・システムとして運用されています。このシステムは、国内の大学

とは大学間ネットワーク(N1-NET)で接続されており、国際学術ネットワークにはBITNETで23か国約2900の大学・研究所と接続され、さらにBITNET経由でアメリカ合衆国のARPANET、CSNET、イギリスのJANETなども接続できるようになっています。システムは常時24時間サービスが行われており、本学の学生ならば誰でも、何時でも、何処からでも、自由にアクセスできます。各学部及び教養部にはサテライト端末局が設置されており70台の端末が学生諸君の活用を待っています。新情報処理システムが提供する研究・教育支援環境は次のとおりです。



また、情報処理センターが提供している図書館情報システムは学術情報を瞬時に提供してくれます。更に高解像度グラフィック支援システム、高分解能画像処理システム、高性能電子出版システム等をはじめとする高水準アプリケーション・システムも豊富に用意されており、あなたの教育・研究環境を一層充実したものにしてくれることでしょう。

◆◆◆◆ 学部 だ よ り ◆◆◆◆

◆ 理 学 部

第2回理学部説明会を願みて

理学部教授 風巻紀彦

1. 実施状況

理学部では8月1日(火)午後、高校2、3年生を対象

とする説明会を、昨年を引き続き、次の要領で実施した。

- (1) 13:15 理学部長の挨拶及び各教室主任の紹介
(10番教室)
- (2) 13:30 学科概要の説明及び実験室等案内(学科
指定の教室)
- (3) 16:15 附属図書館案内

目的は勿論、研究・教育の内容や卒業後の進路状況等に関する情報を提供し、受験生に我々の理学部をより良く知ってもらうことにある。今回は、富山県から19校79名、石川県から6校12名、それに埼玉県からも1名の参加があった。当日は、朝から大変な蒸し暑さとなったが、殆どどの生徒が終始真剣な表情で説明に耳を傾けていた。その様子は、昨日のここのように心に残っている。次に、プログラムの上で昨年と異なる点は、学科概要の説明を、5学科(数学、物理、化学、生物、地球科学)が並列して独立に行うとしたところで、これにより志望学科の説明を十分に聞くことが可能となったわけである。いずれの学科も、昨年の経験を活かし、講座毎の研究概要や卒業生の就職、進学先リスト等の資料を配布する外、パネルやビデオ等を利用して個々の質問に懇切丁寧に応じていたようである。とくに、物理学科で新たに「セミナー体験」を試みたことと、数学科で独自に製作した学科紹介用ビデオ(約20分)が印象に残っている。それと好評だったのは、実験室の見学である。

ところで、参加者の反応だが、理解できたと答えた生徒が全体の23%、少し理解できたが76%、そして92%の者が理学部を受験する予定ということであった。ちなみに、埼玉県から参加した生徒(男子)の場合は、志望が地球科学科で、アンケートに「埼玉から来た甲斐がありました。来年の受験のときに、また来ます!」と答えている。この弾むような反応に、今回の理学部説明会成功の証を見たような気がした。

2. 問われる大学・学部の姿勢

◆ 工 学 部

大学説明会(工学部)の開催について

工学部学務係

平成元年8月1日(火)に進学をめざす富山県、石川県の高校生を対象として、今後の進路の選択に役立てて

18才人口の自然増は、平成4年度にピークを迎える。翌年から激減期に転じ、平成15年には学生数が現在の2/3にまで減少すると予測されている。私立大学側にとって、これが深刻な事態でない筈はない。多分、倒産する大学も出るだろう。一説によれば、この間の倒産件数は4年制大学で20、短大で100という数字も出ている。このような、言わば“冬の時代”にあって、死活の問題となるのは、如何にして受験生を集めるか、ということであろう。当然、各大学とも必死の企業努力を行うに違いない。その結果は(皮肉なことに…)、国公立大学の受験者減という形にもなって跳ね返ってくると思われる。それに、国公立大学の入試制度は、昭和62年度以降、多様化と複雑化が進み、受験生の国公立大学離れに拍車をかけてしまった。ちなみに、平成元年度の共通一次試験の受験者数は、当初40万人を超えると予想されていたが、実際は37万6,717人と逆に前年より千名程減少している。富山大学の場合はどうかと言えば、かなりの志願者増があったにもかかわらず、すべての学部で多数の欠員が生じるという惨状である。このような状況にあって、我々は一体どう対処すべきであろうか。無為無策では現状維持さえも難しい。勿論、起死回生の妙薬など望むべくもない。結局は、大学の資質が問われていると考えるべきであり、その点の認識が先決となる。その上で、事態好転に向けて不可欠な条件となるのは、先ず各教官が研究者として攻撃的であること、第2に、あらゆる機会に富山大学の特長をアピールしようとする積極性であろう。大学説明会は、高校生を対象にしてはいるものの、実は地域社会に対し本学の積極的姿勢を示す絶好の機会でもある。その意味で、文系3学部の不参加により、またもや片肺だけの説明会に終わってしまったことは、本当に残念に思う。来年こそは、全学部が参加し、富山大学の活力を伝え得る大学説明会を是非実現したいものである。

もらうため、大学説明会が行われた。午前は、大学の概要等についての全体説明会、午後から各学部に会場

を移し、工学部では、パンフレット等を使っての学部・学科の特色等について、次の要領で実施し、73名の参加者があった。

1. 工学部長挨拶 (13:10)
 2. 各学科紹介 (13:20)
 3. 系列別説明会 (14:10)
 4. 相談コーナー及び実験室等の見学 (14:10)
 5. 附属図書館見学 (16:40)
- 各学科紹介の後、各学科を第一系列(工業化学科、

金属工学科、化学工学科)、第二系列(機械工学科、生産機械工学科)、第三系列(電子情報工学科)の三系列に別けて系列別説明会を行い、これと並列して常時相談コーナーを開設し、また実験室見学も数回実施するようにしたことにより、学科の内容をより理解できるようにした。

アンケート結果から、工学部について理解できたと回答したのは、回答者51名のうち80%であったことは、まず成功裡のうちに終了したように思われる。

学生部 だより

平成2年度富山大学入学試験について

「平成2年度入学者選抜に関する要項」を7月17日に公表し、希望者に配布しております。

本学は昨年と同じくB日程で、個別学力検査は平成2年3月4日(日)(教育学部の小学校、養護学校並びに幼稚園の各教員養成課程においては5日(月)に実技検査も行う。)で実施しますが、主な改正点は次のとおりです。

1. 従来の「共通第1次学力試験」が「大学入試センター試験」に、「第2次の学力検査」が「個別学力検査」という名称になったこと。
2. 教育学部中学校教員養成課程の家庭専攻において、昨年は「数学」又は「外国語」のどちらかの選択で

あったが、「国語」を加えて3教科のうちから1教科を選択することにしたこと。

3. 理学部の数学科、生物学科、地球科学科で大学入試センター試験の配点を一部変更したこと。
(数学科では個別学力検査の配点も変更)
4. 経済学部(昼間主コース)、工学部で推薦入学の募集人員を変えたこと。
5. 入学志願者数が定員の8倍を超えた学部においては、大学入試センター試験の成績に基づき2段階選抜を行うこともあり得るとしたこと。

なお、後輩のために要項が必要な方は、学生部入試事務室でお渡しいたしますのでお越し下さい。

大学紹介ビデオが完成

主として受験生を対象にした大学紹介のためのビデオテープが7月に完成しました。このビデオテープは、本学の各学部、教養部の教育目標・特色、学内施設、環境及び学生生活の様子を視聴覚的に紹介し、本学を志願する受験生及び高校の進路指導教官の利用に供することを目的として作成したもので、高校等へ貸出しを行っています。

受験生にとっても将来の指針を定め大学を決める際に、大学入試センターのハートシステム等の諸情報だけでなく、実際にビデオを見た方がよりプラスになるものと期待されます。

なお、ビデオテープの機種はVHS方式で、放映時

間は文科系(人文学部、教育学部、経済学部編)、理科系(理学部、工学部編)それぞれ約20分です。

最後に、当ビデオ作成に際してご協力いただいた各学部、教養部及び各施設等の教職員並びに学生諸君に対し、深く感謝の意を表します。

○内 容

- (1) 本学の立地、風土等
- (2) 教養部の紹介
- (3) 各学部の紹介
- (4) 附属図書館、共同利用施設等の紹介
- (5) 学生生活の紹介
- (6) 卒業生の声

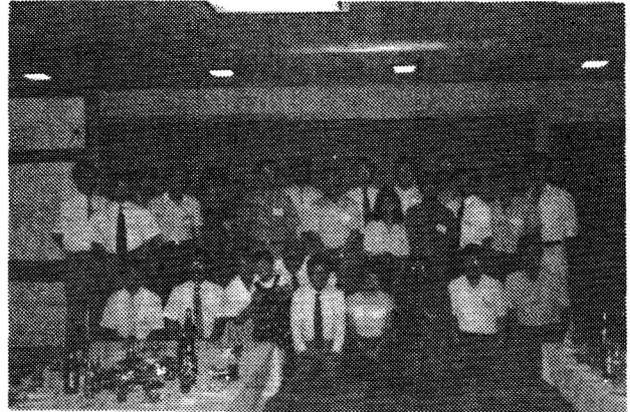
外国人留学生との懇談会が開催される

本学に在学する外国人留学生と教職員との懇談会が7月19日(木)午後5時30分から本学職員会館において開催された。

この懇談会は、相互理解と交流を深めることを目的に例年開催されているもので、今回は、外国人留学生、国際交流委員会留学生部会委員、各部局の留学生担当職員及び学生部職員など計31名が一堂に会した盛大な催しとなった。

最初に、瀧澤学生部長から本学には、6ヶ国から留学生を迎えているので、国際的な文化体験をされるとともに友好を深めて下さいと歓迎の挨拶があった後、懇談に入った。各留学生から流暢な日本語で留学の感

想、富山での生活等近況も合わせて自己紹介があるなど、国際交流の輪が広がり、盛会裡のうちに終了した。



第39回北陸三県大学学生交歓芸術祭日程表

当番大学 福井大学
平成元年10月28～12月3日

期 日 部 門	10月		11月						12月	
	28(土)	29(日)	4(土)	5(日)	18(土)	19(日)	25(土)	26(日)	2(土)	3(日)
放送劇									福井市内各寺院	
管弦楽			福井 県民会館	鯖江市 文化 センター						
合 唱				福井大学 体育館						
軽音楽	福井市民福祉会館									
邦 楽	福井 商工 会館	福井大学 学生会館 教育学部								
美 術					福井大学体育館					
写 真										
書 道										
茶 道							福井市内各寺院			

平成元年度 北陸地区国立大学体育連盟表彰者（本学分）

優秀表彰者

水 泳 部

加 藤 歩（富山大学教育学部小学校教員養成課程 昭和63年度卒業）



昭和61年度			
北陸地区国立大学体育大会	100mバタフライ		1位
〃	100m背泳		1位
全国国公立大学選手権水泳大会			出場
昭和62年度			
北陸地区国立大学体育大会	100mバタフライ		1位
〃	100m背泳		1位
〃	200m個人メドレー		1位
中部国公立大学水泳選手権大会	〃		1位
全国国公立大学選手権水泳大会	400m個人メドレー		14位
〃	200m 〃		12位
昭和63年度			
北陸地区国立大学体育大会	100mバタフライ		1位
〃	200m個人メドレー		1位
中部国公立大学水泳選手権大会	〃		1位
全国国公立大学選手権水泳大会	400m個人メドレー		7位
〃	200m個人メドレー		7位

第41回 北陸地区国立大学体育大会団体成績一覧表

種 目		優 勝 杯	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男	陸上競技	金沢大学長杯	金沢	富山	富医	福井	福医	
	野球	富山大学長杯	金沢	福井	富山			
	庭球	富山県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医	福医	
	軟式庭球	石川県知事杯	金沢	富山	富医			
	卓球	金沢市長杯	富山	福井	金沢	福医		
	バドミントン	福井市長杯	金沢	富山	富医	福井		
	バレーボール	福井県知事杯	金沢	福井	富山	富医		
	サッカー	石川県知事杯	金沢	富医	富山	福井	福医	
	ラグビー・フットボール	富山県知事杯	金沢	富医	富山	福医	福井	
	剣道	福井県議会議長杯	金沢	富山	福井	富医	福医	
	柔道	富山県議会議長杯	金沢	福井	富山	富医		
	バスケットボール	福井大学長杯	金沢	富山	富医	福医		
	水泳	福井大学学生部長杯 金沢市議会議長杯	金沢	富山	福井	富医	福医	
	ヨット	石川県議会議長杯	金沢	富医	福井			
子	準硬式野球	福井大学父兄後援会杯			(中 止)			
	ハンドボール	金沢大学長杯	福井	金沢	富山	富医		
	空手道	福井市長杯	金沢	富医	富山	福医	福井	
	弓道	富山大学長杯	福井	富山	金沢	富医	福医	
	体操	福井市議会議長杯	金沢	福井	富医			
	自動車	金沢大学長杯	金沢	富山	福井			

種 目		優 勝 杯	1位	2位	3位	4位	5位	6位
女	陸上競技	富山県体育協会長杯	金沢	富山	富医	福井	福医	
	庭球	石川県議会議長杯	金沢	富医	富山	福井	福医	
	軟式庭球	福井県体育協会長杯	富山	金沢	富医			
	卓球	石川県体育協会長杯	富山	金沢	福井	富医		
	バドミントン	福井県教育委員会杯	金沢	富山	富医	福井		
	バレーボール	富山大学後援会長杯	金沢	富山	高短	富医		
子	剣道	金沢大学長杯	金沢	富山	富医	福井		
	バスケットボール	富山市議会議長杯	金沢	福井	富山	富医		
	弓道	小杉スポーツ杯	富山	金沢	福井	福医	富医	高短
	水泳	福井大学長杯	金沢	富山	富医	福井	福医	

平成元年度 奨学生貸与状況

平成元年9月1日現在

区 分	日本育英会		その他の 奨学 金	合 計	平成元年 9.1現在 在 学 生
	第一種	第二種			
人文学部	74 ^人	16 ^人	15 ^人	105 ^人	388 ^人
教育学部	112	17	14	143	523
経済学部	117	27	15	159	922
理学部	84	19	10	113	431
工学部	104	22	22	148	784
教養部	462 (1)	114	47	623 (1)	2,972
計	953 (1)	215	123	1,291 (1)	6,020
大学院	62		20	82	227
専攻科	2			2	4
合 計	1,017 (1)	215	143	1,375 (1)	6,251

()併用貸与者

昭和63年度アルバイトの斡旋状況

昭和63年度に学生部厚生課で取り扱ったアルバイトの斡旋状況は次のとおりです。表Ⅰは、職種別アルバイトの斡旋状況及び賃金を、表Ⅱ、図Ⅰは月別の求人件数・求人者数・紹介者数の状況をそれぞれ表したものです。

表Ⅰ 職種別アルバイトの斡旋状況及び賃金

昭和63年4月～平成元年3月

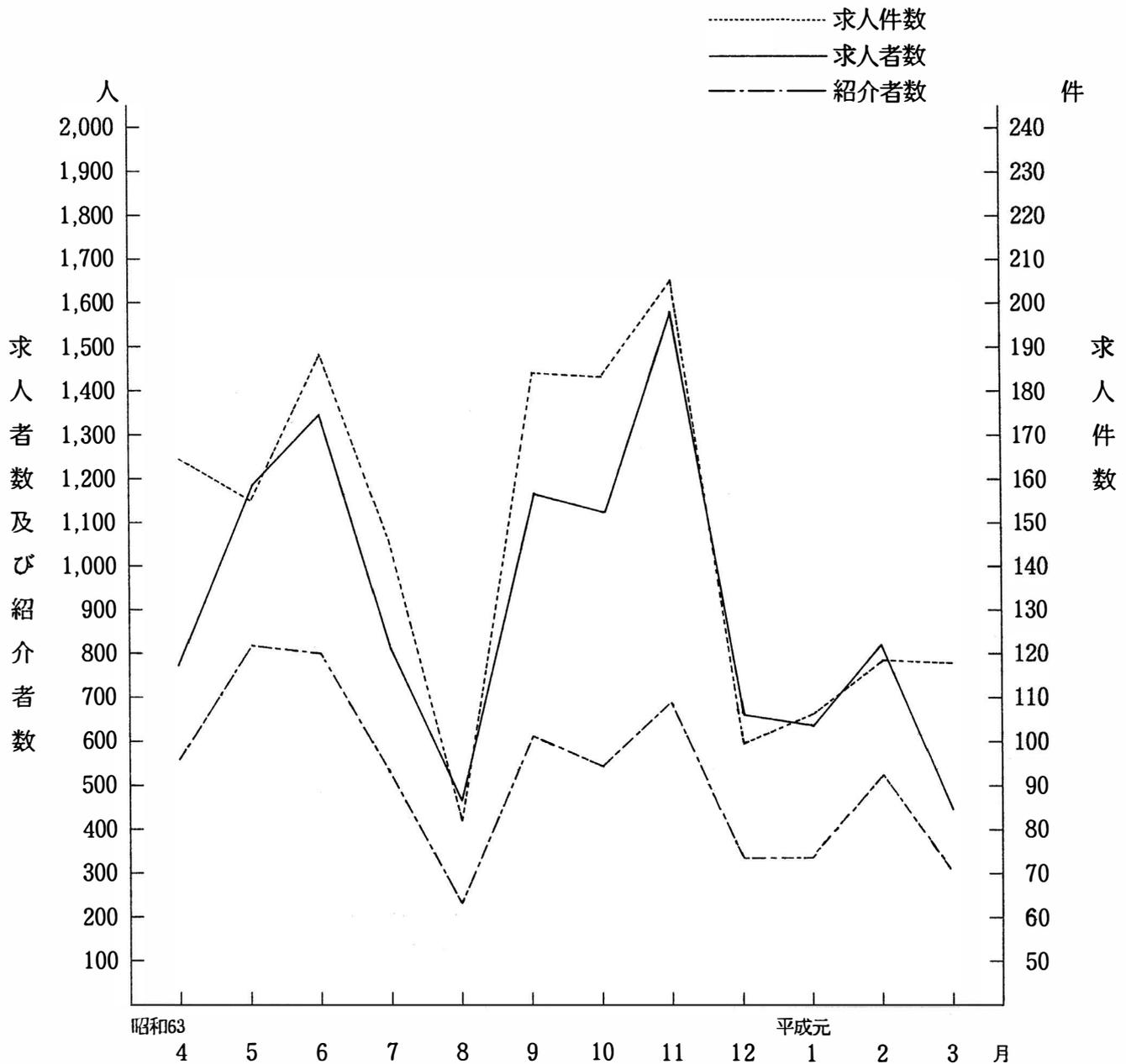
職種	項目	求人件数	求人者数	紹介者数	具 体 例	賃 金
家庭教師	件	260	260	212	家庭教師	時給 円 小学生の場合 1,400 中学生の場合 1,500 高校生の場合 1,700
学習塾講師		89	449	235	塾の講師	時給 700～2,400
事務		69	344	186	一般事務, 宛名書, 校正 電話応対	日給 4,000～8,000
調査		48	548	308	交通量調査, 世論調査 地温調査	日給 3,700～12,000
重労働		514	4,094	2,365	搬出, 搬入, 荷造, 配達, 引越し, 清掃, 倉庫内整理	日給 4,700～16,000
軽労働軽作業		241	1,914	905	文書の封入・発送, 駐車場整理, 歯科助手, サンプル配布, 検品	日給 3,800～10,600
特殊技能		38	173	92	コンピューターのオペレーター プログラマー, ピアノ演奏	日給 4,000～11,100
販売店員		249	1,275	614	商品販売, ガソリン給油, レジ	日給 4,000～12,500
その他		242	1,996	1,459	受付, イベント手伝い プールの監視補助 みこし引き, 巫女, 試験採点	日給 4,200～12,500
合計		1,750	11,053	6,376		

表Ⅱ 月別求人件数・求人者数・紹介者数の状況

昭和63年4月～平成元年3月

項目	月別												計
	63年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	元 1	2	3	
求人件数	164	156	188	146	81	184	183	205	100	106	119	118	1,750
求人者数	777	1,195	1,347	825	479	1,167	1,121	1,577	666	633	806	460	11,053
紹介者数	565	816	800	535	243	601	566	695	348	349	539	319	6,376

図I 月別求人件数・求人者数・紹介者数の状況



「富山大学学生健康保険組合」の医療費請求手続き並びに「学生教育研究災害傷害保険」の保険金請求手続きについて

「富山大学学生健康保険組合」の加入者並びに「学生教育研究災害傷害保険」の加入者（両保険共、昭和61年度以降入学生については殆ど全員加入）は、それぞれ所定の手続きにより医療費の給付又は保険金を受けることができます。

しかし、中にはこれら制度の加入者であることを忘

れてしまっていたり或いは気付かなかったりして、治療を受けながら医療費等の請求手続きをしていない者もいるのではないかと思います。

せっかく各人が加入している制度でありますので、治療等を受けた場合は速やかに請求手続きをとるなど同制度を大いに活用してください。

また、これらの制度の利用にあたっては、所定の手続き期限等がありますので、詳細については学生部厚生課保健係又は各学部（部）学務（学生）係窓口で尋ねて不利益を被らないよう十分留意してください。

なお、今年4月1日より、「学生教育研究災害傷害保険」の保険契約者の『財団法人学徒援護会』は、『財団法人内外学生センター』の名称に改められていますのでお知らせします。

平成元年度学生健康保険組合予算並びに 昭和63年度学生健康保険組合決算について

このことについて、去る7月11日(火)開催の学生健康保険組合理事会において、次のとおり承認されました

のでお知らせします。

(1) 平成元年度学生健康保険組合予算

<預り金>

収 入 の 部		支 出 の 部	
繰越預り金	10,172,700円	運営費へ繰入れ金	7,037,700円
新入生等組合費	7,284,800円	返 還 金	132,000円
		預 り 金	10,287,800円
合 計	17,457,500円	合 計	17,457,500円

<運営費>

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	5,882,266円	医療費等給付金	6,000,000円
平成元年度預り金より繰入れ金	7,037,700円	事務運営費等	1,136,000円
預 金 利 息	580,000円	予 備 費	6,363,966円
合 計	13,499,966円	合 計	13,499,966円

(2) 昭和63年度学生健康保険組合決算

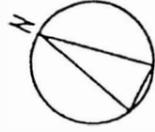
<預り金>

収 入 の 部		支 出 の 部	
繰越預り金	9,760,700円	運営費へ繰入れ金	6,732,800円
新入生等組合費	7,266,000円	返 還 金	121,200円
		預 り 金	10,172,700円
合 計	17,026,700円	合 計	17,026,700円

<運営費>

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	5,136,828円	医療費等給付金	5,511,141円
昭和63年度預り金より繰入れ金	6,732,800円	事務運営費等	1,016,210円
預 金 利 息	539,989円	翌年度繰越金	5,882,266円
合 計	12,409,617円	合 計	12,409,617円

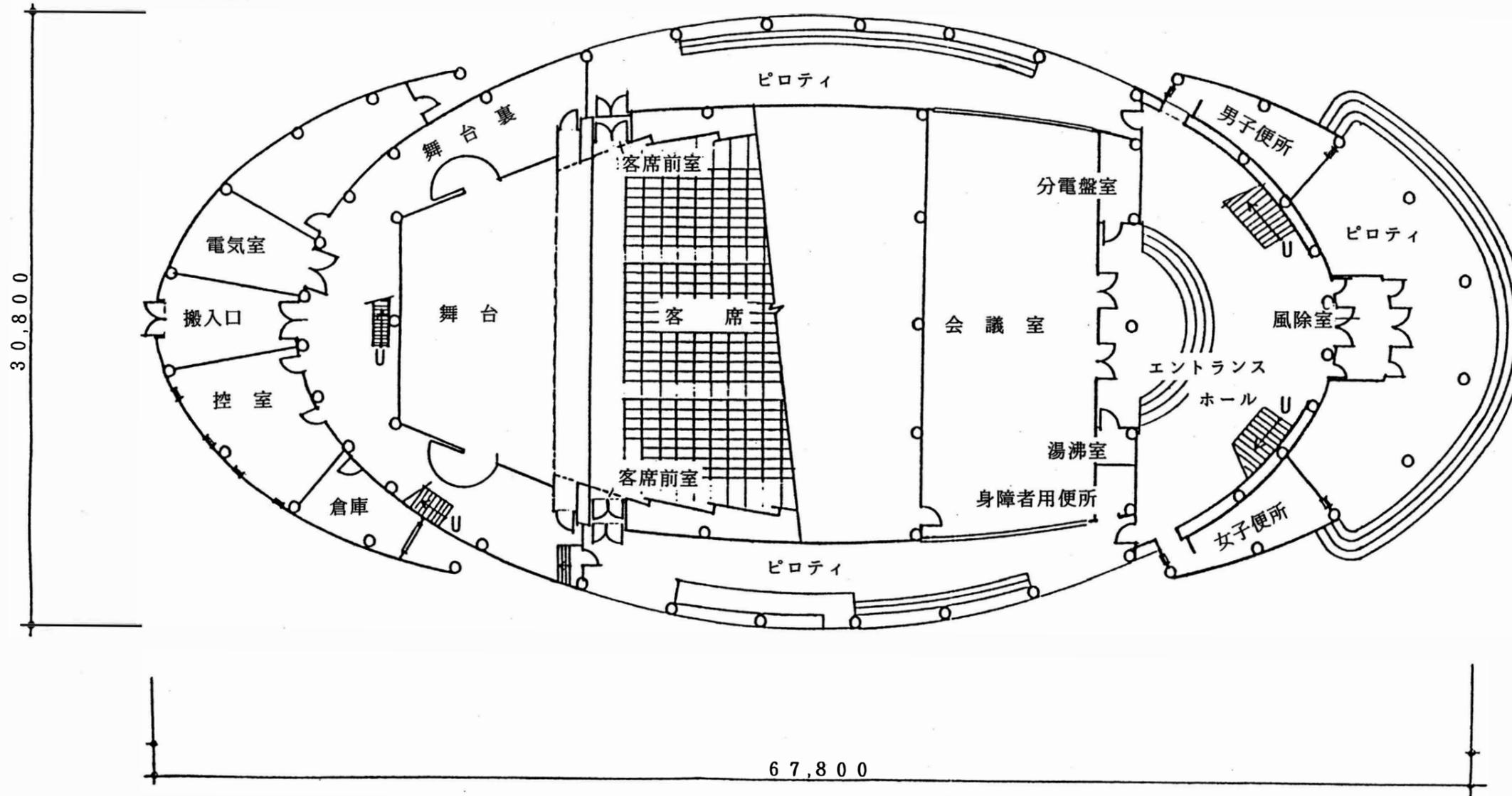
黒田講堂について



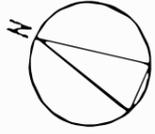
現在建設中の黒田講堂の平面図については、昭和63年10月11日発行の学園ニュース第61号で掲載しましたが、今回改めて掲載します。同講堂は、12月中旬に竣工予定であります。この時期は、降雪の季節となる等の事情もあり、落成式は、来る11月29日(木)に挙行されることになりました。

なお、竣工後、各設備・装置の試運転調整が必要なため、使用開始は明春以降になる予定です。

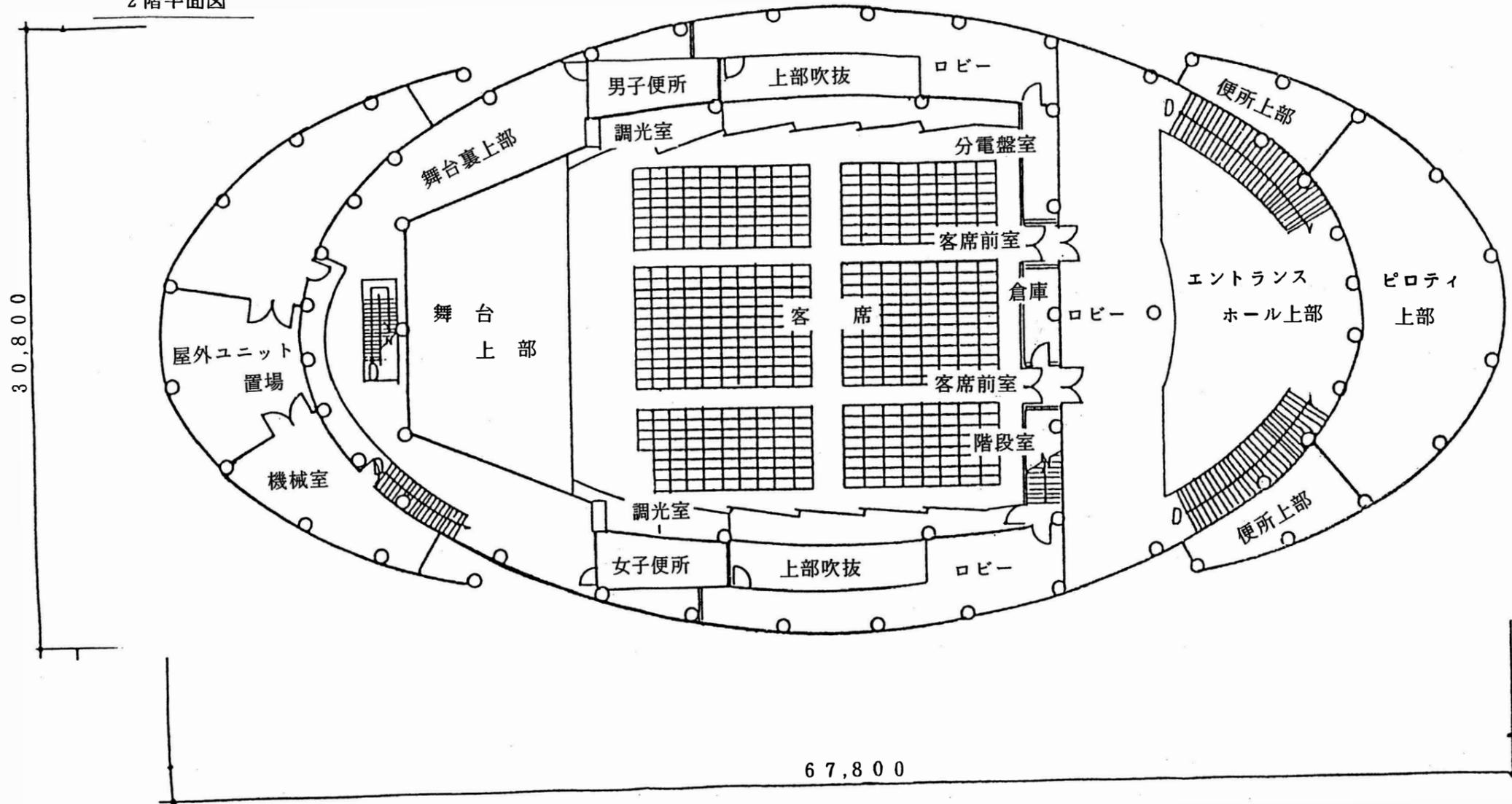
1階平面図



面積表	
階数	面積
1階	1201.3㎡
2階	532.0㎡
計	1733.3㎡



2階平面図



クワ（*Morus bombycis* Koidz.） クワ科

クワはかつて養蚕がさかんだった頃、全国いたるところの丘陵地には桑畑があり、蚕の餌として栽培されていた。

クワは山野に自生するヤマグワが栽培用に改良されたものである。野生のヤマグワは日本全土に広く分布するほか、朝鮮半島や樺太にも生育する。栽培されたクワは毎年短く刈り込まれるため大きくならないが、本来は高さ10m、胸高直径50cmを越える立派な大木となる。落葉性で、葉は先端が突出した卵形となり、長さ20cm近くになる。ことに栽培種では葉が大きくやや肉厚となり光沢があるのが特徴である。

ふつう雌雄異株で、雌株は7～8月ごろ枝の先に紫黒色の実（果穂）を付ける。果穂は多汁質のがくが種子を包んだ多数の小さな果実からできている。この実は甘く、そのままでも食べられるが、砂糖と煮つめると良質のジャムができる。また実を集めて発酵させると葡萄酒に似た桑実酒ができる。葉を乾燥して桑

茶を作り、また根は漢方ではセキどめの薬として用いられる。材は緻密で堅く木工品の素材や漆器の木地として珍重される。また樹皮は繊維が長く、織物の原料とされたこともある。

本学キャンパス内では、情報処理センター前の庭に一株植えられている。

教養部教授 小島 覚



学園ニュース編集委員

学生部長	瀧澤	弘
人文学部	河村	貞枝
〃	山口	幸祐
教育学部	呉羽	長
〃	原田	嘉昭
経済学部	山崎	清
〃	相澤	吉晴

理学部	松本	賢一
〃	広岡	公夫
工学部	島崎	長一郎
〃	杉本	益規
教養部	高安	和子
〃	山本	孝一